

事業名 学びタイム

≪拠点≫緑児童館

対 象 中高生

事業内容

毎週土曜日、閉館後の児童館で中高生の自主学習の場を実施しています。それぞれ宿題やテスト勉強に取り組む時間と、「みんなで学び場」という時間を設け、有志の中高生と職員でテーマを決めてワークショップに取り組んでいます。自主学習とワークショップを通して、お互いの思いや意見が尊重され、安心して「できない」「わからない」ことが表明できる場づくりを行っています。

事業のポイント

- ・「できない」「わからない」「なんで？」を安心して表すことができる
- ・学術的内容だけでなく、私のこと、ひとのこと、暮らしのこと、社会のこと、全部ひっくるめて学びである
- ・その日取り組むことを自分で決定する
- ・自分が取り組んでいる内容に関心を持つ
- ・ひとつひとつの問題に丁寧に取り組む

こんな力を身につけてほしい：担当者の願い

- ・自己肯定感(ありのままの自分を受けとめる力)
- ・答えのない課題について問い続ける力
- ・自分の内面を見つめる力
- ・多様性を尊重する力
- ・論理的に批判する思考力
- ・ものごとの本質を見抜く力

エピソード

「主体性をもった学び」

長年児童館に通っている常連の小学生の男の子。学校での様子に心配な部分があり提案しても、「児童館は遊ぶところだからなあ」と、宿題を持って来る気配はありませんでした。やきもきしていた夏休みの終わりがけ、突然彼は「宿題持って来た！」と現れました。毎週土曜日、職員と中高生の遊び友達と一緒に、おしゃべりしながら家庭科の制作物に取り組みました。みんなに進捗具合を見てもらったり、話を聞いてもらったりしながら宿題に取り組んだ経験は、彼の中で「ここなら勉強をしてみたい」という気持ちに結びついたようです。

今でも2ヶ月に1度、思い出したかのように「今日は宿題をやるんだよ」と言って、遊びに遊んで、閉館ギリギリの最後の10分になって取り組み始めました。落ち着いて学習に取り組むことが出来る10分間。今すぐに結果が出るとは限りませんが、彼の中で学習が「できないとバカにされるもの」から「自分でやってみたいと思えるもの」に変わることは学びの主体性を取り戻す第一歩なのです。

「みんなで学び場」

「みんなで学び場」は、自分と違う考え方を知ったり、自分はどうかと考えたり、自分の世界を広げるための時間です。毎回みんなで決めたテーマに基づいてワークショップをおこないます。先日のテーマは「今ハマっていること」でした。一人のハマっていることをみんなで質問してヒントをもらいながら当てるゲームをしました。質問するのが楽しい子、訊かれるのが嬉しい子、まわりのやりとりをじっと聴きながら予想する子など、一人ひとり自分なりの役割を持ってワークショップに参加しているようです。

「自分の好きなことなんて、訊かれるまで考えたことなかったなあ。」

「こんなこと人と話したことなかった。」

何気ないテーマですが、自分事として考えたい身近なテーマこそ、すべての事柄に正解があるわけではないということを知り、問い続けることや深く考え続けることのおもしろさを実感することが出来ます。身近な事柄から出発して、学術的内容や社会に興味・関心が繋がっていく。また巡り巡って自分や他者に思いを馳せる。そんな自由な学びを実現します。